



## ● Slack 回転混色盤チャンネル開設

昨夏発足の色彩教材研究会回転盤チームでは、オンラインチャットアプリ Slack（スラック）を利用して、回転盤の原図の共有を開始いたしました。

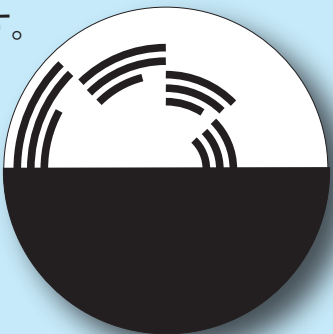
オンライン上に資料を保管できる Slack は、欧米の大学では授業の連絡・資料の共有に一般化しており、PC・スマホ・ブラウザ上、どれでも利用することができます。

今後も、定期的な原図アップと研究テーマごとの新チャンネル開設、そこからの交流促進を期待しております。

ご興味をお持ちの方は、お気軽に永田顧問までご連絡ください。Slack に登録をさせていただきます。Slack の使い方の URL は・・  
<https://www.sedesign.co.jp/blog/how-to-use-slack>

百円ショップに各種扇風機が並ぶ時期になりました。ダイソーの300円のUSB扇風機プラ製をお勧めします。

混色円盤の原図を Slack からダウンロード・印刷して、回転混色実験をされてはいかがでしょうか。（山根千明）



## ● 季節の色・若苗色

伝統色名に「若苗色」がある。苗代から田んぼへ植替えた稲の苗、早苗のような色でマンセル値は 7.5GY 7/6 近辺の黄緑系の色。

植物の緑の場合、「若」と付く色名は若葉や新芽が表され、春に多用される色であるが、「若苗色」は夏（初夏）の色とされた。

元は染色の色。刈安で黄色に染め、更に蓼藍の生葉で染めたもの。『源氏物語』「宿木」の話にも出てくる。「濃き桂に撫子とおぼしき細長 若苗色の小桂着たり」とあり、濃紅の桂に撫子襲の細長、「若苗色」の小桂という姿を表現。

かさねの色目の「若苗」の配色は「表裏淡萌黄」「表裏淡木賊」など他諸説ある。

「苗」が付く色名は他に「苗色」があるが、「若苗色」の染色が平安時代の宮廷などに使われ、「若苗」のかさねの色目の配色があるので、「苗色」より早く使われていたのでは、というのはとても興味深い。

緑一面の日本の美しい水田風景をあらためて眺めてみたいと思う。（瀧川優子）



## 源氏物語の色 -31 「真木柱」

玉鬘は意に反して髭黒に嫁ぐことになった。髭黒は正妻にかまわず玉鬘に夢中になり、自宅に引き取ろうと思いをめぐらす。そのような夫を見て正妻は乱心し火取りの灰を浴びせかける、というとても千年前の物語とは思えないような展開のこの帖。

灰だらけの髭黒はとても出かけられる状態ではなくなり、玉鬘の元へ手紙で知らせるのだが、その時用いたのが「白き薄様」。

これは艶書用なので選択として決して誤ってはいないのだが、内容は格別風情のあるものではなく、もらった玉鬘も何とも思わず返信もしない。

髭黒本人が一人舞い上がっている様子が「白き薄様」の存在をむなしのものにしているように感じてしまう。

この後、正妻は子どもたちと共に実家に引き取られるが、姫君は「真木の柱はわれを忘るな」と別れの歌を「檜皮色」の紙に書き、真木の柱の隙間に挟み込む。

檜皮色の紙を同系色の柱に挟み込むのは、誰にも見つけられずずっとこの家に秘めていたと思ったからであろう。

父と娘の紙の色の対比が面白い。  
<https://note.com/genjicolor> (渋谷典子)